

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害国際協力セミナーを実施しました（2024/11/30）

テーマ：カスケード効果と Natech 事故、災害後の遺体管理、地域の復旧・復興、中長期的な復興
会場：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

2024年11月30日（土）、「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害国際協力セミナーを東北大学災害科学国際研究所で実施しました。プログラム履修生5名が受講しました。朴慧晶助教（災害医療国際協力学分野）が実習コーディネーター・講師を、ボレー・ペンメレン・セバスチャン准教授（国際研究推進オフィス）、井内加奈子准教授（レジリエンス計画研究分野）、永見光三特任教授（2030 国際防災アジェンダ推進オフィス）が講師を務めました。佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）がモデレーターを務めました。

病院や役場などに勤務しているプログラム履修生は、ふだん従事している医療や行政以外の災害の課題や、国際的な災害の話題に接する機会はほとんどありません。しかし、災害時の人びとの健康や福祉を考える際には、それらを取り巻く、もしくは前後して発生する災害課題を理解しないと、一面的な支援に陥ってしまいます。朴助教は災害のカスケード効果と Natech 事故、平時のリスクコミュニケーションについて、ボレー准教授は大量死の課題と遺体管理の重要性について、井内准教授は途上国における災害と地域再建について、永見特任教授は JICA での活動とその反省に基づく日本、ネパールでの活動について、それぞれ講義しました。受講生は日頃接することのない災害増強の原理や、遺体管理、国際的潮流の話題に接し、自分達が活動する医療や福祉の現場と他分野の課題が密接につながり、災害を多面的に理解する重要性に気づくことができました。

社会の災害対応力向上にはそれを実践できる人材育成が不可欠です。当研究所ではこのような実践的研修会を継続して開催していきます。



カスケード効果と
Natech 事故について講義
する朴助教



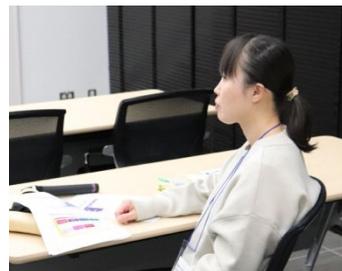
災害時大量死の課題について
講義するボレー准教授



途上国の災害と地域再建に
ついて講義する井内准教授



JICA での活動について講義
する永見特任教授



ネパール地震後の復旧・復興
について質問する受講生



会場の様子